

KBSは「HANDS ON型」で、観光・サービス業界を支援します。http://www.kbsbiz.com E-Mail : info@kbsbiz.com

はいたい!長濱です。前回は、座間味村招聘事業レポートの前編として、座間味島でのモデルコースの内容をご紹介いたしました。

今号では、座間味島よりも更に規模が小さく素朴で不思議なおちつきを感じる、阿嘉島での体験についてもレポート致します。

招聘事業から早くも一カ月半が経ち、島のゆったりとした空気を味わいにもう一度訪れたい気持ちが湧いてきます。KBS エンタープライズが心からお薦めする、自然の恵みが溢れる座間味村へみなさまもぜひ足をお運びくださいませ!

プランナー 長濱佳子



KBSエンタープライズの旅行流通事業・沖縄事業

「世界が恋する海」を擁する国立公園 沖縄県・座間味村へ行ってまいりました。〈後編〉 2019年2月13日(水)～15日(金)

■座間味島亜熱帯テラスでの意見交換



島歩きで案内をして下さった大城晃氏のご厚意により、食後は亜熱帯テラス（バーベキューテラス）で泡盛を頂きながら語らいの時間を過ごしました。

今年で20回目を迎えるサバニ（琉球で古くから使われていた漁船）帆漕レースのスライドを見せて頂きながらその迫力に感動し、私たちも島への思いが高まります。

シュノーケリングやフィッシングはもちろん、月夜の無人島渡しまで、島の資源を知り尽くした大城氏ならではのアイデア溢れるアクティビティや、移住者が増加していること等から派生している島の課題など話は尽きず、座間味の観光に関する意見交換に時が経つのを忘れてしまいました。

■阿嘉島へ移動

座間味村のもう一つの有人島、阿嘉島へ移動します。

座間味島から阿嘉島へは美しい内海を村内航路「みつしま」に乗って15分で到着、船内はゆったりとしていて快適です。※「みつしま」は一日4往復運航しています。



《阿嘉島の概要》



阿嘉島は人口約260人面積3.96km²の、手つかずの自然が残る静かな島です。島のほとんどは山々が占めており、人が住む集落は港周辺の阿嘉集落一カ所。決して広くはない集落内に、国内外の観光客を迎えるダイブショップや民宿が何軒も並んでいます。

海の見しさは格別で、港から徒歩20分の北浜（ニシバマ）ビーチにはサンゴやカラフルな魚たちが沢山生息しており、夏はシュノーケリングを楽しむ人で賑わいます。また、国指定天然記念物のケラマジカが棲息しており、運がよければ朝夕遭遇することも。私たちも港の近くで3頭のケラマジカと偶然出会うことができました。

■海水を使った島豆腐（ゆし豆腐）作り体験

阿嘉島に到着後、宿泊先「民宿すまいる」で島豆腐作りを体験しました。

沖縄の豆腐は内地よりも崩れにくいしっかりとした食感が特徴です。先生のお母様は、島に物資が届くのが遅いためなんでも手作りをされていたとのこと。島豆腐もお母様のレシピを先生がしっかりと受け継いで今に伝えています。

できあがった豆腐は、夕食時のメニューとして頂きました。

シンプルに調理された冷奴、ゆし豆腐、おからは素朴な中に味わいがあり、とても美味しくいただきました。



■サンゴの話

2018年3月にサンゴ礁の保全と情報発信を目的として設立された「慶良間諸島国立公園ビジターセンター さんごゆんたく館」の館長で、長年サンゴについて研究してこられた谷口洋基氏から、サンゴについてのレクチャーを受けました。

沖縄の美しい海がサンゴの営みによって彩られていることは皆が知っていますが、その実態についてはわからないことばかり。わかりやすくサンゴの生態やサンゴが海で担っている役割について教えて頂きました。

サンゴはイソギンチャクの仲間で、夜は動物プランクトンを食べ、昼は体内にいる褐虫藻が光合成を行うことによって生きています。そのサンゴが長い年月をかけて積み重なってできた地形がサンゴ礁で、地球表面の0.1%を占めているサンゴ礁は、森の中の木のような役割を担い、魚、貝など9万種類の生き物の生態系を支えています。

近年、サンゴの白化、オニヒトデによる被害が広がり、慶良間諸島を含め各地のサンゴ礁が危機的状況に陥りました。

座間味村では、サンゴ礁を回復させるため、綿密な調査と研

究を行っており、サンゴの養殖にも世界で初めて成功しました。サンゴ保全を確かなものにするため、阿嘉島で卒業していく子供達にサンゴの移植をしてもらうなど、子供や学生への啓発、教育活動も行っているとのこと。

現在は慶良間のサンゴはかなり回復を遂げ、慶良間諸島で生まれたサンゴの卵が潮ののって沖縄本島周辺にも運ばれるという調査結果もあることから、慶良間の海はサンゴのふるさとといわれています。

座間味村を含む慶良間諸島の観光資源はダイビングなどの海を楽しむアクティビティ。その人気を支えるサンゴ礁を守ることは、島の生活にも直結します。

サンゴの産卵についての話はとても神秘的でした。同じ種類のサンゴはどのサンゴも同時に産卵し、初夏の満月前後の夜にみられる一斉産卵の美しさは格別だそうです。

お話を伺って、都会で暮らしていると忘れがちになっている自然を守ることの重要さを思い出し、日々の生活の中でできることを実践していきたいと思いました。

■ノルディックウォーキング講習

ノルディックウォーキングは、専用の2本のポールを使って身体の90%を活用しながら歩くことで消費カロリーが増加することが検証されている、フィンランド生まれのスポーツです。ポール

によって腰や膝への負担も軽減され、安心して行えるフィットネスとして注目されています。

今回、海と緑の絶景が広がる阿嘉大橋を渡り海沿いを歩き、更に慶留間橋を渡って目的地

でサンセットを眺める予定だったノルディックウォーキングは雨のため中止になり、代わりに屋内でポールを使った歩き方についての講習を受けました。

ポールの先を体の斜め後ろに突いて腕を大きく振って歩くと、自然と体が前に押し出され、歩幅が広がり歩くスピードも速くなるのを感じます。

景色や会話を楽しみながら身体を動かす楽しさを感じることで、日常生活で歩く習慣をつけていききっかけにもなりそうな気がしました。



■招聘事業に参加させて頂いて

初めて訪れる座間味村。島に近づくにつれて海はエメラルドグリーンに変化していき、離島独特のゆったりとした空気の中、少しずつ気持ちがあほれていくのを感じました。

座間味村には大きなリゾートホテルはなく、数々の小規模な民宿、ダイビングショップが国内外の観光客を迎え入れています。どの事業者様からも、座間味村の住民であることの誇りや大切な島の自然や伝統を守っていききたいという熱意、島を訪れた人に座間味の良さを存分に楽しんでもらいたいという思いが伝わってきました。現地の方は皆様、島のいいところはもちろん課題についても忌憚なく語って下さり、心から島を愛しているからこそ、様々な側面から島に向き合っているのだと感じました。

鯨が北の国から繁殖のために訪れ、ウミガメが産卵をし、サンゴ礁のふるさととなっている動植物の楽園は、何もせずに維持できるものではなく、島を愛する住民の方々の日々の努力によって保たれており、訪れた観光客はその自然を享受する

ことで、心身共に癒され、元気をもらってまた日常に戻っていきます。

現在、日本の様々な観光地が「住む人にも訪れる人にも幸福度の高い観光のあり方」についての問題に直面していますが、座間味村も例外ではありません。

観光地が魅力的であり続けられるのは、そこに住む人の営みや生活が守られてこそ。訪れる人は、迎え入れてくれる人たちとその土地への敬意と感謝を忘れてはならないと改めて実感しました。

今回招聘事業に参加させて頂き、人にも自然にも優しい座間味村の観光から沢山のことを学ばせて頂くと同時に、現地の皆様は模索されている「持続可能な座間味村ならではの観光づくり」の一助を私たちも担わせて頂きたいと心から感じました。



編集後記

「世界が恋する海」沖縄県・座間味村からのレポートの後編は、文字通りエメラルドグリーンの海に浮かぶ阿嘉島からのレポートです。人口約260人。港から徒歩20分にある絶景の北浜（ニシバマ）ビーチ、海水を使って作る島豆腐（ゆし豆腐）体験など、手つかずの自然が残る静かな島のような雰囲気は読むだけでも心が落ち着きます。同時に、貴重な観光資源でもある海を楽しむアクティビティを支えるサンゴ礁を守り回復させるため、世界で初めてサンゴの養殖にも成功したこと、子供達にサンゴの移植をしてもらうなど、子供や学生への啓発、教育活動も行っているとの取り組みを知り、さらに座間味村への愛着が増したレポートでした。（増田）

KBS グループ

株式会社 KBS 創研 経営革新等支援機関 近財金1第241号 20130528 近畿第74号

株式会社 KBS エンタープライズ 兵庫県知事登録旅行サービス手配業 第18号

関西本社：〒661-0003 兵庫県尼崎市富松町3丁目1-5-203 TEL:06-6423-5561/FAX:06-6423-5571

東京本部：〒151-0053 東京都渋谷区代々木2丁目23-1-766 TEL:050-3452-2488

沖縄オフィス（KBS エンタープライズ）：〒900-0012 沖縄県那覇市泊2丁目1-18 T&C泊ビル4階 TEL:098-917-0117/FAX:098-943-1501